

まつど宇宙の学校 4回目活動レポート



エアドームの移動式プラネタリウム。



講師の岩上洋子さん

2月3日（日）松戸市青少年会館にて、「ミニミニプラネタリウムで冬の星座をさがそう&凧と静電気クラゲを空にあげよう」を実施し、児童25名と保護者、付添児童で約60名が参加しました。

移動式プラネタリウムは、岩上洋子さんが、暗幕用の遮光カーテン生地をミシンで縫い製作した直径3mのエアドームに、専用のプロジェクターで星空を映しだします。今回はプラネタリウムでの冬の星座探しメインテーマですが、定員10名なので、児童を3班に分け、プラネタリウム、凧、静電気クラゲの3つのプログラムを、25分間交代で体験することにしました。

ドームに入り、冬の星座を探し、宇宙旅行をします。保護者も観たい、との声がありましたが、時間がとれず、参加児童のみとしました。凧作りは、古川章博さんが担当です。発泡スチロールの薄い板に、凧糸、スズランテープの足をつけ、10分程度で完成です。子供たちは体育室内を、早歩き、だんだん早足、最後は駆け足状態で、夢中で凧上げ、体がぼかぼか温まりました。静電気クラゲは、横山三郎さんが担当です。演示を交えて、静電気について解説してから作り方を説明しました。長さ30cmくらいのスズランテープを、たわしで漉き、細くして、片方を結び、あっと言う間に完成です。下敷きを衣服などで擦り帯電し、クラゲを空中に浮かせます。慣れてくると、長時間、浮遊させることができ、クラゲの滞空時間を競いあいました。

年間4回のスクーリング、今回が最終回で、プログラム終了後は閉校式です。まずは、家庭での実験レポート提出者5名と内容を紹介し、その出来栄を皆で称えました。そして、修了証を授与し、ku-ma（子ども・宇宙・未来の会）元理事の古川章博さんが挨拶、来年度の計画をお話しして、今年度も無事に、「まつど宇宙の学校」が終了しました。



走って凧上げ、寒さは吹き飛びました。



静電気クラゲ、いつまでも浮いています。

■講師の感想

広い体育室に直径3mのドーム、小さいですが中に入ると星空が広がります。太陽系を飛び出し、銀河系も超えて宇宙の姿を観に行きました。子供たちは声をあげて宇宙旅行を楽しんでくれたようですが、3mの中に25分も入っていたので、外に出ると走ります。体を動かして遊びながら学ぶ静電気クラゲと凧を組み合わせたのは正解でした。また、さすが「宇宙の学校」の子供たち、低学年とはいえ星座や星の名前をよく知っていました。名前を覚えるのは友達になる第一歩、さらに興味を深めていってほしいです。

岩上洋子（プラネタリウム解説員）

■保護者（参加児童とキッズボランティア）の感想

昨年は兄、今年は妹、2回目の参加です。ペットボトルロケット以外は、初めての内容で、昨年は付き添いの娘もドキドキしながら参加しました。ペットボトルロケットはずっと念願のものだったので、やっと自分のロケットが出来た！と大喜びでした。

キッズボランティアとして参加した息子は、昨年と違う講義に興味津々でした。ペットボトルロケットは自分も体験しているので、思い出しながら教えたりしておりました。作る方より教える方のほうが難しい、と今までにない経験もできたようです。生徒時代より学年があがったこともあり、講義の内容も理解が深く、また違う視点からも考えたりしておりましたので、キッズボランティアはとても良い体験だったと思います。

我が家は皆、理科的、科学的なことが大好きで博物館やプラネタリウムに出かけたり、テレビを鑑賞しますが、「そういえば宇宙の学校でこんな話があったね」など話題になり更に深い関心を持つことができました。学校ではなかなか機会のない、専門の知識のあるスタッフの方に今まで知らなかった宇宙やロケットの話、モーターなどの話など教えていただくことができ、子どもにはとても新鮮で面白いものであったと思います。

私は、自然や身の回りには不思議がたくさんあってそれを面白い！もっと知りたい、と発見するアンテナをのばして欲しい、と思っていたので「宇宙の学校」はとても良い機会であり難いと思っています。4回のスクーリングですが、子どもにはそれ以上に思い出深く心にしっかり残っているようで、「宇宙の学校」の話を娘はもちろん、息子は今でも目をキラキラさせて楽しそうに話しております。親子で学んで工作した、というのもとても良い楽しい思い出です。また、ロケットやモーターなど、ちょっと難しい知識を知ったことで、帰宅して得意げに家族に話しております。いろいろ学ばせて、成長させていただきありがとうございます。またどうぞよろしくお願いたします。

大田佐和子